

# 清水こういちろうの イエローカード!



これは京都伏見みず病院グループ理事長・清水鴻一郎が、医療・介護・福祉の現場はもちろん、現在の日本が抱えている様々な事柄へするどく斬りこみ、問題提起するコラムです。



## 第7回テーマ

### 多数の医療現場の声を反映するのか不透明な 診療報酬決定プロセスへのイエローカード

我が国の医療をかたち作る仕組みは、「診療報酬による誘導」という側面が強くあります。どう点数付けするかで、医療提供体制が変わり、時には、病院・診療所の存続にもつながります。今日の医療崩壊を招いた大きな要因の1つが、この診療報酬の大幅な切り下げ改定です。

診療報酬改定は、政治の場で予算額を定め、その配分を中央社会保険医療協議会(中医協)が決定しています。この中医協には、病院や診療所などを代表する“委員”が入り、現場の声を届けてきました。

ところが政権交代により、このシステムは大きな変化を迎え、中医協の構成委員は、いわば一本釣りのような形で決定しました。本来、構成委員は大多数の声を代表する者であるべきなのですが、今回の決定プロセスには何の合理的な説明もないため、場合によっては少数派の代表が委員となる可能性も考えられます。穿<sup>うが</sup>った見方をすれば、今後、選挙応援する者を委員とする危険性すら感じさせられます。

本当に医療の再生を考えるなら、こうした不透明なプロセスを改め、切迫する医療現場の多くの声を届ける、誰もが納得できるシステムを整備すべきではないでしょうか。

